エシカルな
取組紹介
01

Change the future

“誰もが自分らしくいられる社会のために”

社会福祉法人パステル　理事長 石橋須見江さん

桑とともに生きてきた小山市

桑の葉って見たことありますか？お蚕さんが食べて絹をつくる原料になるもの。お隣の結城市が結城紬の産地だったことから、小山市でも春になると鮮やかな緑色の桑畑がそこかしこに広がっていました。おじいさんが桑の葉で蚕を育てて繭を取り、おばあさんが糸を紡ぎ、お父さんが染めの準備をして、お母さんが機織りをする。もちろん子どもたちもお手伝いをします。自然との関わりの中で、家族がお互いに支え合い協力し合う、なんとも豊かな日本の暮らしが営まれていました。私が子どものころ、今から5～60年前の話です。

桑と共に生きてきたまち 小山市で、この桑でなにかできないか…そう考えたのは私にとって自然な流れでした。その想いを少しずつあたためていき、2017年の「桑のミクスプロジェクト」につながったのでした。

利用者さんと一緒に作業をする理事長。みんなを見守るまなざしが優しい。

みんなでつくる桑パウダー

桑とは、古くから漢方の生薬として使われるほど、栄養と生命力に満ちた植物です。カルシウム、マグネシウム、鉄分などのミネラル類や食物繊維が豊富で、動脈硬化の予防や糖の吸収抑制など、その健康効果が期待できます。

桑はパウダーにして、いろいろな加工品をつくることができますが、簡単ではなく、長い工程があります。「パステル」では、この全工程を障がい者である利用者さんたちが担っています。どの工程でもひとつ抜けたら完成しないことから、自然とお互いをリスペクトし、いきいきとした表情で仕事に励んでくれています。彼らが根気よく丁寧に仕上げてくれる高品質の桑パウダーのおかげで、たくさんの桑商品ができあがっています。どれもが胸を張ってお届けできる自信作です。

すっきりして飲みやすい桑の葉のお茶。カルシウムや鉄分などが手軽に摂れる。

本当においしいから、みんなが集まる

小山市にある「みゅぜ・ど・ぱすてる」は手作りピザやパスタをいただける本格イタリアンレストランとなっています。また、たくさんの桑の加工品も販売しており、小山市の名産品としてお土産にもおすすめです。例えば桑の葉のお茶はクセがなく栄養満点、ノンカフェインなので、どんな方も安心して召し上がっていただけます。桑の葉の成分でつるつる＆もちもちに仕上がる、うどんやパスタもおすすめです。

オープンの2018年より、たくさんのお客さまで一日中賑わっています。本当においしいものを提供しているからこそ、みんなが自然と集まってくださるのだと思います。

「ノウフクJAS」を選ぶ。未来が変わる。

ここで手に取るもの、口にするものの多くは障がい者が農業を通して自信や生きがいを感じ、社会に関わっていく取組である「農福連携」によってもたらされたものです。また、障がい者が生産工程に携わった食品の農林規格、いわゆる「ノウフクJAS」が制定され、私たちも、2020年に関東地方で初めて「ノウフクJAS」の認証を取得、さらに「2022ノウフクアワード（地域を耕す）」において、準グランプリを取得することができました。

「ノウフクJAS」商品を選ぶこと、その行動そのものが障がい者や関係者の応援になります。多様性に富んだ、心豊かな社会の実現へ近づいていくのです。それはまさに未来を変える、エシカル消費です。

「ノウフクJAS」認定の桑商品で、販路拡大にも挑んでいる。

誰もが助け合い、心からの笑顔でいられるまち

敷地内では、季節に合わせたいろいろな野菜を栽培している。

石橋理事長の想いが込められた著書「障がい者と地域社会の真の共生を目指して」。

「桑のミクスプロジェクト」の本当の目的は、共生社会の要になることです。桑の存在を通して、養蚕という伝統産業を継承し、障がい者や高齢者などすべての人が働ける場所をつくり、地域社会と関わり合いながらその価値をあげていくこと。とくに利用者である障がい者が人としての権利と尊厳をもち、ともに生きていく存在として地域社会の一員として包み込まれていくことを、ゴールのひとつとして掲げています。

私は大学卒業から定年まで、教員として知的障がいのある子どもたちや保護者の方たちと共に歩んできました。当時の特殊学級（現在の特別支援学級）では、障がい児たちの良さを「こんないいところがあるよ」と常に啓発していくことが大きな役割でした。養護学校に異動し、障がいのある子どもたちをのびのびと過ごさせることができるようになったと思いましたが、その多くが社会に出たとたんにつまずいてしまうことがわかりました。

彼らに「そのままでいんだよ」といってあげるには、地域社会全体が変わらなければならないと切実に思いました。そこには「心」と「人間性」が必要なのです。そうした想いから、社会福祉法人を立ち上げるに至ったわけですが、道はまだ半ばです。私が目指しているのは、障がい者や社会的な弱者と呼ばれる人たち誰もが、あたりまえに地域の人たちと助け合い、支え合いながら心からの笑顔で生きているまちです。その理想に一歩でも近づけるためにも、ぜひエシカル消費で応援してくださったら嬉しいです。